

大日本帝国植民地と文学の言語

帝国主義、そして帝国崩壊と脱植民地化という大きな災厄の連鎖のなかから現代文学は練り上げられてきた。旧宗主国の言葉で脱植民地化のプロセスを描いた文学作品をいま読み返す。

◆第1日：2013年2月23日(土) 14:00-18:00

参加無料
事前申込不要

『『華麗島文学志』とその時代』合評会



司会・発話：西成彦（立命館大学）

著者：橋本恭子（一橋大学 PD 研究員）

コメント：星名宏修（一橋大学）

豊田周子（関西学院大学）

垂水千恵（横浜国立大学）

◆第2日：2013年2月24日(日) 14:00-18:00

「小説の一言語使用問題：中西伊之助から金石範まで」

発表：西成彦（立命館大学）

「マムリと金石範」（仮題）

発表：鵜戸聡（日本学術振興会特別研究員）

コメント：渡辺直紀（武蔵大学）、安田敏朗（一橋大学）

朴裕河（世宗大学校）、原佑介（日本学術振興会特別研究員）



場所：立命館大学 衣笠キャンパス 末川記念会館 第3会議室

共催：立命館大学国際言語文化研究所・2012年度研究所重点研究プロジェクト「カタストロフィと正義」、
日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成 基金助成金（基盤研究(C)））（課題番号
24520411）「比較植民地文学研究の基盤整備」

お問合せ先：立命館大学国際言語文化研究所 TEL：075-465-8164 E-mail: genbun@st.ritsumeai.ac.jp